食は文化

私は数年前にペントシリンのアレ

をみてふと思い出

したことがある。

惑う患者さんの姿

光風園病院 理事長

木 毅

とは、食事はその人の生活であり文 方向である。 心がもたれていることは、望ましい ようとしており、 防事業でも栄養状態が取り上げられ ることとなり、このための研究班が 構成される予定である。 また介護予 のマネジメントに関する研究が始ま 高齢者に対する栄養・食事サービス 介護保険関係で、 しかしここで重要なこ 高齢者の栄養に関 施設および居宅

介入試験中、 栄養士も看護スタッ

ないことではないだろうか。

平成八年頃から高齢者の栄養管理

化であるということを忘れてはいけ

栄養失調状態であると言われた。 期病院や施設にいる人の半分以上が 清アルブミン値が三・五 mg/dl 以下 の研究では、 に関する研究が急速に始まった。 は蛋白質・エネルギー低栄養状態と し、これを日本に当てはめると慢性 米国の研究を参考に血 そ

する目的であった。 白質・エネルギー低栄養状態を改善 査や高蛋白の栄養付加などを行い蛋 が行われた。これは高齢者の状態調 この状態を改善しようと介入試験

平成16年11月30日 発行日 老人の専門医療を 発行所 考える会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-1-7 コスモ新宿御苑ビル 9F

基陽 平井

T E L.03(3355)3020 FAX.03(3355)3633

を介助している姿

ように工夫し食事

しでも多く食べる

フも患者さんが少

発行者 http://www6.ocn.ne.jp/~rosen/

Ę

お膳を前に戸

る。 栄養課職員はいろいろな料理を作っ 復しないのでとにかく食べろという。 けなかった。 か食べろという。 てくる。 しいとは思わなかったし何も受け付 一週間は空腹感もなく全く食事がほ ギーで急性肝炎になったことがあ 三週間ぐらい入院したが最初の しかし看護職員は、 食べないと早く 何 П

ったが、 るが、 強いすることは、 体重に戻ってしまった。 治療のため が四㎏減りそのまま維持しようと思 復力や免疫力を弱めることになりは 以外のなにものでもなかった。 とはいえ食べる気がないときに無理 しないだろうか。 心配してくれているのはよくわか 全く余計なお世話であり迷惑 回復するとたちまちもとの 返っ てその人 体重 の回

> また、 前 ご馳走の日、 曜の朝食はなくてもよいとい とを考えないといけないと思う。単 な考えがよいと思う。 などと決めることがどんな意味を持 の内容を決めるのは間違っている。 に栄養状態の数字で栄養指導や食事 つのだろうか。一日二食でもよいし、 高齢者も生活全体を見て食事のこ 昼食は十二時、夕食は六時以降 食事は一日三回、朝食は八時 お茶漬けの日とか、 ・う柔軟

以降、 り、 も向上し、 ができれば病状も良くなり、 びが増すのではないかと考え 時期に来ていると思う。 という動きも現実味を帯びてきてお 的な再評価を行う必要があると思う。 に豊かなおいしい食事を食べ いるのか、 介護施設で実施されている夕食六時 らということで九〇%以上の 診療報酬の特別管理加算があるか 食事を保険給付の対象外にしよう 食事の提供のあり方を考え直す 適温給食も真に効果を挙げて 看護・介護を含めて総合 患者さんの生きて もっと自由 ること 病院や ている。 いる喜 回復力

(34)

現場からの発言(正論・異論)・

主張

在宅からの視点 医療の透明性について

在宅リハビリテーションセンター成城 センター長 土田昌

もなく、諸所に自前の医療を勝手流 経験の深さと経験年数は全く相関性 説明を得ると言うのは、都民にとっ 診療所であれ、医師から的確な病状 面で見ている状況です。病院であれ、 に提供されているようです。 て困難な場合が多いようです。 臨床 東京の在宅医療の惨状を大画

も「持続導尿をしているから、安心 談したら、よく診察もせずに感冒と を受ける始末です。その後は仙骨部 ました。トイレに行きたいと訴えて 安静」で入院加療させられてしまい たら、変形性頚椎症の診断で「床上 復が思わしくなく別の病院を受診し の褥瘡・被害妄想などが出て、家族 のことで投薬を受けていました。 の調子が悪いので近くの診療所で相 しろ!」と言われ、果ては身体拘束 例えば、軽度の失語症の人が、 首 口

> えたのですが、前院では入院後の説 院許可を出したのでしょうが、 明もなく、時期が来た(?)ので退 な病院がまだあるのだなあと思いま の強い希望で自宅退院となりました。 この方が当クリニックに相談にみ こん

ないような状況です。 だけ、検査結果は尋ねても説明せず、 薬指導は出来合いのプリントを渡す に至っては、家族にもほとんど行わ 介利用者についても大同小異で、服 「概ね大丈夫」の一言。病態の説明 また、中規模以上の病院からの紹

が必要ですということで、当クリニ 剤、整形外科に行けば脊柱管狭窄症 でブロックや消炎鎮痛剤・ノイロト に行けばパーキンソン症候群で抗パ ロピンなど、どちらも後はリハビリ 歩行困難一つにしても、神経内科

> が、内服薬の要らない人がほとんど 齢によるものが主体であったり、脊 髄小脳変性症であったりと様々です は廃用症候群が重なっています。 ック紹介となっています。その多く

期の看護師が三年位前に帰国してお り、こんなメールをくれました。 いていた虎の門病院勤務医時代の同 そんな折、十年ほどアメリカで働

をあまり信用してないのが本音です。 も言い返せません。私も日本の医療 らが言っていることが本当なので何 判を聞かされます。辛辣ですが、彼 中にいると何度も日本の医療への批 制は疑問が一杯です。外国人社会の 今勤めている学校の学園長が、七 『外国人から見ると日本の医療体

> ました。「結果は異常なし」というこの病院に行ってエコーをしてもらいように勧めました。彼女はすぐ近く とでした。

そして夏休みでフィリピンに戻ったとき、そこの病院でみてもらったら、最初はわからなかったのですが、ら、最初はわからなかったのですが、を、最初はわからなかったのでもう一度やってみなが見つかり手術ということになったようです。 て検査できなかったのでしょうか。このケースは特別な例ではなく、何件もそういう話を聞きます。これは、件もそういう話を聞きます。これは、いから?一人一人の患者を親身に診いから?一人一人の患者を親身に診いから。 ていないから?

これってやりきれないですね。アの医者の妻が乳がんで死んだ」といの医者の妻が乳がんで死んだ」といれがんで死んだ」といるがあるで死ぬ人はいないと医者が笑 この間も朝日新聞で「いまどき、

ました。五月頃、保健室に来て、胸

のしこりが気になるから見てくれと

いうのでチェックしたら、大き目の

月にフィリピンで乳がんの手術をし

メリカなら訴訟ですよ。』

ことから早急に病院にいって調べる

しこりがあったので、家族歴もある

5人医療

調

療養病床の変革は、

定山渓病院院長

中川翼

私は、一九六七年(昭和四二年)に大学を卒業し、二年間の留学生活を含め足掛け二十七年間、大学と総合病院で脳神経外科の基礎研究と臨床を行い、一九九五年(平成七年)から慢性期医療(老人医療)を行う現在の病院に勤務している。早いものでこの仕事を始めて九年七ヶ月が過ぎた。か医療の中心であり、慢性期医療はその副次的なものという考えが、職員全体にじわっとはびこっていることであった。私自身その空気の中に片足ぐらい入りかけていたようにも用える。

くということでは、慢性期医療そのなり、ただ漫然と業務をこなしていえない面はあろう。しかし、そのここれは、医療内容の性格上やむを

くれたと感謝している。

このような中で、第十二

一回日本療

私どもはこれまでいろいろな取り

族に申し訳ないことであった。も当院を選んでくれた患者様とご家めた。そしてそんなことでは何よりなのの役割と社会的責任さえ見失っ

な取り組み」、「口腔ケア」、 れらの取り組みに、良く 援」、「職員の研修、研究の奨励」等 棟の取り組み」、「胃ろうへの積極的 受審」、「ISO9001, 造影と嚥下訓練」、「特殊疾患療養病 者様へ」、「日本医療機能評価機構の 東廃止」、「終末期医療の取り組み」、 の取り組みを行ってきた。 1の登録」、「車椅子の工夫」、「嚥下 「リハビリテーションをすべての患 「褥瘡の予防と治療」、「病棟再編」、 その後、職員の協力の下、「身体拘 ついてきて 1 4 0 0 職員はこ 「在宅支

当院では、診療部門も現副院長をは まずいと内心びくびくした。しかし、 た。後は怖いのは、台風だな、と半 きた底力を示す良い機会と考え、ま 極めて優秀、かつ協力的であったこ 務長をこう呼んでいる)、看護部長が 営管理部長(渓仁会グループでは事 じめとして充実している。また、経 風がぐんぐん北上してきた。 これは 関係者に感謝しつつ大会準備を進め た、このような機会を与えてくれた とはとても大きな力になっている。 幹部職員と職員の存在が欠かせない。 幸いなことに九月八日には台風はオ 分冗談をいっていた矢先に本物の台 大切なのはトップの情熱であり、チ ホーツク海に消えていった。 秋晴れ ームワークである。 それには誠実な の青空の下、学会は無事終了した。 どんな組織でもそうであろうが、 この会は私どもがこれまで培って

> 養環境」である。 をいことがあるのもまた事実である。 をいことがあるのもまた事実である。 をいことがあるのもまた事実である。 をの最大の懸案は箱物としての「療 をの最大の懸案は箱物としての「療 をのようなソフト面 をのようなソフト面

当院は一九九六年(平成八年)に新棟を完成し、完全型の療養型病床群(当時)の基準をとることができた。しかし、当時、敷地に限界があったため、基準をクリアーするのに精一ため、基準をクリアーするのに精一をあった。一年ほど前より渓仁会本部とも交渉を重ね、理事会の承認をしている。現在、「トイレ」、「浴室」、「病室、ナースステーション」、「厨房」、「その他の部屋等」の五つのワーキンググループで、熱気あふれる議論の真っ最中である。

医療情勢は厳しい話ばかりである。 医療情勢は厳しい話ばかりである。 をなって、もろもろの難局を克服し で、渓仁会本部と当院の職員が一丸 変革は、未だなかば」との考えの下 変革は、未だなかば」との考えの下 で、渓仁会本部と当院の職員が一丸 ので、渓仁会本部と当院の職員が一丸

何かが変わる 利用者負担増で

導入する案が固まったらしい。 光熱費を求めたり、 筋力トレーニングや痴呆予防などを 護保険施設の入院・入所者に食費や に対して単なる家事援助を制限し、 介護保険制度の見直し議論で、 軽度の要介護者 介

伺うと、 光熱費あるいは新介護予防給付につ ことがわかる。 考えるかどうかがメインで、食費や 語では制度の普遍化)をどのように ているものの、この意見書を読む限 保険部会の第二十一回会合が開催さ に納得している、 いて十分な説明があるわけではない。 十二月十日に社会保障審議会介護 意見書がまとまったことになっ 介護保険の範囲拡大(厚労省用 改めて各委員から直接話しを 委員のうち意見書に全面的 部会での各委員の発言内 という人はいない

意見書には、事務局が掲示した意

異口同音だ。 多くのジャー まった。これは個人的意見ではなく、 見に概ね了承する意見が多数を占め ころか。 不十分であるという印象を与えてし ているとあるのが、明らかに議論が -ナリストや委員個人が 時間切れで幕というと

会を進めたのではないかと勘ぐらざ プなのだろう。だが、一般庶民感覚 省のデキレースで、合意があって部 るを得ないだろう。 からすると、もともと財務省と厚労 報道した。多分、この記事はスクー 己負担を求めることで合意した」と 七十五万人にのぼる特別養護老人ホ は「厚生労働省と財務省は十六日、 来年十月から食費・居住費の全面自 -ムなどの介護保険施設の入所者に 十二月十七日の日経新聞朝刊一面

ばよいことである。食費につい う」という声が高い一方で、「居住費 髙齢者団体からも「若い人に迷惑ば 用者本人の負担増を求めざるを得な などというあいまいな費用は払いた かりかけられないし、払える者は払 いというのであれば、よく説明すれ 制度の持続性などという言葉で利 ては、

> 得られているとは言い難い。 にあったものの、負担だけ十月一日 から増加することに関して、合意が くない」という意見が大半であると しする」という事務局の発言が過去 いう。それと「可能な施策は、前倒

三年半後には、また負担増にすると 施設では、全額利用者負担であった は、介護保険制度導入前の老人保健 増には反対だ。ただ、食費について 利用者負担増だけが先行するという ろうか。これでは「制度の普遍化」 では、利用者負担を軽減し、わずか 円支払っていた人々も都市部では多 本人所得が高い場合、月額二十二万 ことになってしまう。できれば負担 の議論は、仕切りなおし、ただただ スターに乗っているようである。 し、特別養護老人ホーム入所者で、 い。にもかかわらず、介護保険制度 いうのである。 まるでジェットコー もっとましな進め方はないのであ

ばならない。 者に十分配慮すれば、ぎりぎり容認 せざるを得ないのであれば、その他 のことについても対応を考えなけれ 食費の全額利用者負担は、低所得

まず、医療保険の食費はどうするのかを、なるべく明確に公表すべきである。中医協が機能していないことは理解できるが、なんでもなし崩し的に負担増を求めることは、制度全体へのそれこそ「持続性」に欠ける結果になるのではないか。 つぎに、食費全額負担への対応、例えば治療食や管理栄養士などの減額あるいは栄養指導や、食事の質の維持などについて、どのようにするのかを早急に取りまとめて欲しい。 介護保険制度を創設すれば、介護保険料は年々増加し、利用者負担がいずれ増加するであろうことは、制度に織り込み済みであったと思う。したがって、負担増に全面的に反対するつもりはない。しかし負担強化しかないというのは無策だよな。

へんしゅう後記

来年三月十二日にシンポジウム 「終末期をどう生きるか」を開催す ることになった。これは老人医療だ が設か在宅かという問題でもない。 を開催するテーマではなく、また、 を開催することが当会の一つの役割だと思う。